様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３３８０４
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１９５０１

研究課題名（和文）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質評価指標の開発

研究課題名（英文）Development of a quality evaluation index for nursing care that integrates the perspectives of cancer nursing and geriatric nursing

研究代表者
天野　薫（Amano, Kaoru）

聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授

研究者番号：９０７４７８３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：高度実践看護師へのインタビューを含む調査により、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質評価指標が開発された。がん看護と高齢者看護の領域において重要な看護観とケア行動、影響要因に基づき、構造、過程、アウトカムの観点から評価項目を抽出した質評価指標は、臨床看護師が、がん看護と高齢がん患者の視点を融合した看護ケアとそのアウトカムについて援助の指針として確認できるツールとなった。質評価指標の開発過程で、協働介入がが看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアにおける重要なキー概念として抽出された。高齢がん患者を中心とする協働介入の明確化と妥当性を高めることが、実装化に向けた今後の課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
がん看護と高齢者看護領域の高度実践看護師の実践知に基づき開発された、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質評価指標は、臨床看護師が、人生の最終段階をがんと共に生きる高齢がん患者を包括的に捉え、援助の指針として活用できるツールとなると考える。本研究で開発した質評価指標は、がん看護と高齢者看護の双方の視点を持って高齢がん患者への看護ケアを発展させていく過程を促進することものとして位置づくと考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, a quality evaluation index for integrated nursing care consisting of 24 items was developed through surveys including interviews with advanced practice nurses in the fields of cancer nursing and geriatric nursing. Based on nursing views, care behaviors, and influencing factors in the fields of cancer nursing and geriatric nursing, we extracted evaluation items for the quality evaluation index from the perspective of structure, process, and outcome.
The quality evaluation index have become a tool that clinical nurses can use to identify interdisciplinary nursing care and outcomes as guides for assistance. Collaborative intervention was extracted as an important key concept in interdisciplinary care. In order to clinically implement the quality evaluation index that nurses can use, further research is needed that focuses on clarifying collaborative interventions centered on elderly cancer patients and enhancing their validity.

研究分野：看護学

キーワード：がん看護　高齢者看護　看護ケア　質評価指標　領域横断的ケア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

我が国では、人口の高齢化によって、高齢者のがん罹患数ならびにがん死亡者数が増加し、高齢がん患者のさらなる増加が予測されている。厚生労働省（2018）によると、平成 28 年度の年齢階級別国民医療費は 65 歳以上が全体の 59.7%を占め、がんを含む新生物に対する医療費は 2.7 兆円になるなど、高齢がん患者の QOL の維持、医療費の適正化の面からも、高齢がん患者の療養生活から看取りに至るまでの方策の確立とケアの必要性が高まっている。

特に老年期は、これまでの人生で築いてきた価値観や信念をもって自分らしい人生を統合していく時期である。高齢がん患者は、老いを重ねつつ、死を連想しやすいがんを患うという絶望の危機に直面しながら、自分の人生を受け入れ統合していく状況にあり（近藤ら，2019）、ライフステージに応じたケアが必要とされている。

高齢がん患者については、がん患者という部分的な視点に焦点を当てるケアだけでなく、加齢や慢性疾患の併存によりがんや治療に伴う有害反応を受けやすい高齢者の身体的特徴や、認知機能低下などによって主体的な意思決定が脅かされやすい高齢者の特性を十分に考慮する必要がある。しかし、高齢がん患者に対し、がん看護と高齢者看護の双方の視点を融合して行う看護ケアは体系化されていない。

そこで、研究者は、がん看護と高齢者看護の双方の視点を融合した高齢がん患者への看護ケアの体系化に向けて、がん看護領域の臨床看護師を対象にその実践知を明らかにする先行研究に取り組んだ（天野，2018）。しかし、高齢がん患者に一定の質が担保された看護ケアが提供されるためには、がん診療の場で高齢がん患者に対峙する臨床看護師が、がん看護と高齢者看護の双方の視点を融合した看護ケアの質を評価できるツールの開発が必要であると考えた。

２．研究目的

がん診療の場で高齢がん患者と対峙する臨床看護師が、がん看護と高齢者看護の双方の視点をもって高齢がん患者への看護ケアを発展させていく過程を促進するために、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質評価指標（以下、質評価指標）を開発することである。質評価指標を開発するために、以下（1）～（3）の点について明らかにする。

（1）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケア
（2）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質を測定する評価項目
（3）看護ケアの質評価指標の妥当性

３．研究方法

（1）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケア

エスノグラフィックリサーチを採用し、がん看護領域と高齢者看護学領域の専門看護師および認定看護師の資格をもち、高齢がん患者への実践もしくは相談，調整，倫理調整の経験を有する者への半構造化面接、ならびに、がん治療病棟に入院する高齢がん患者 3 名への研究者による援助経過記録のデータについて、NVivo を用いてコーディング、カテゴリー化し、がん看護と高齢者看護の双方において重要な看護観とケア行動、影響要因のテーマとパターンを導いた。調査は、研究者所属の倫理審査委員会の承認を得て行った。

（2）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質を測定する評価項目

質評価指標は、臨床看護師が、実践のなかで、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの過程とアウトカムについて確認し、気づきが得られるものとして位置づけた。(1) で明らかにした看護観とケア行動、影響要因について、Donabedian（1980）の医療の質評価の枠組みに沿って評価項目を抽出した。

（3）看護ケアの質評価指標の妥当性

質評価指標の妥当性を高めるために、スコーピングレビューによる結果を質評価指標の項目に反映し内容妥当性を高めることとした。がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアと題する文献が検索されなかったため、近似の意味をもつ用語として「統合ケア」をキーワードに含め、CINAHL、PubMed、医学中央雑誌をデータベースに、選定基準に沿って抽出された文献を分析対象とした。CINAHL、PubMed での検索式は、(cancer patients or oncology patient s or patients with cancer) and (elderly or aged or older or elder or geriatric) and (integrated care or integrated approach)とし、Clinical Trial に限定した。医学中央雑誌では、「統合ケア」「がん」を検索式とし、原著論文に限定した。さらに、ハンドサーチによる文献を追加し、高齢がん患者への統合ケアについての記載がある文献を選定した。各論文の全文を読んだうえで論文の結果に示された主な内容から高齢がん患者の統合ケアに該当する箇所を抽出し，カテゴリー化し、その結果を踏まえ、(2) の質評価指標の項目を修正した。

４．研究成果

（1）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケア

がん看護専門看護師 4 名、老人看護専門看護師 3 名、化学療法認定看護師 2 名、乳がん看護認定看護師 1 名、皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名、摂食・嚥下障害看護師 2 名への面接データならびに援助経過記録の分析から、がん看護と高齢者看護の双方において重要な看護観について 6 つのテーマ（表 1）、ケア行動について 5 つのテーマ（表 2）、影響要因については個人要因 3 つ、環境要因 4 つ、関係要因 5 つのテーマ（表 3）を明らかにした。そして、看護観とケア行動、影響要因の関連をパターンとして図 1 に示した。

表1. がん看護と高齢者看護の双方において重要な看護観

高齢がん患者が主体である
その人の本質に繋がる潜在能力と可能性を信じる
喪失を乗り越えた先の自己実現がある
苦痛と恐怖のない生活支援が意味をもつ
その場で見て触れることでわかることがある
真に必要な支援は看護職のみで答えはでない

表2. がん看護と高齢者看護の双方において重要なケア行動

喪失体験を乗り越えるきっかけとなる意味を思考する
声にできないニーズと可能性を探る
苦痛のない心地よい環境を整える
日常におけるその人のパターンに合わせる
多角的評価を取り入れた協働を推進する

表3. 看護観とケア行動に関わる影響要因

個人要因	知識や技術の鍛錬
	患者についての捉え方の確立
	臨床判断に関わる倫理
環境要因	症状の悪化
	終わりの見えない治療
	家族の疲労
	患者を取り巻く日常
関係要因	医療者や家族への依存
	患者のゆらぎ
	良好な協働関係
	他職種からの評価
	地域とのつながり

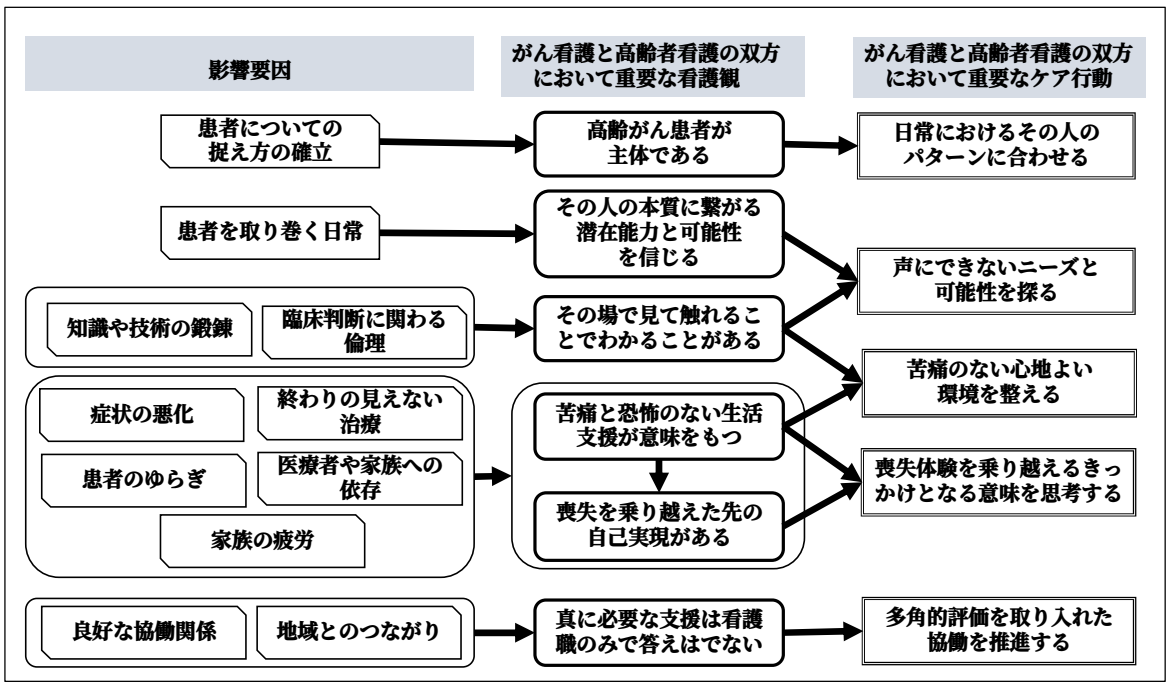

図 1. がん看護と高齢者看護の双方において重要な看護観とケア行動、影響要因の関連

今回、がん看護と高齢者看護の双方において重要な看護観とケア行動について導くなかで、高齢者看護学領域の看護師のみが重要と考える看護観とケア行動があった。具体的には、高齢者看護学領域の看護師のみが重要と考える看護観は、＜家族ケアが高齢者の安心に繋がる＞、＜患者に配慮されている立場を自覚する＞であり、高齢者看護学領域の看護師のみが重要と考えるケア行動は、＜自己の価値観に問いかける＞、＜繰り返し足を運び、語りを聴く＞であった。

（2）がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの質を測定する評価項目

本研究で開発する質評価指標は、人生の晩年にがんを病む高齢者が主体性と個性を保持して老いることができるような尊厳ある支援と、がんと共に生きる過程の中でその人にとっての意

味を見出していけるような支援の両方の視点を持ちあわせた看護ケアについて評価できることを焦点とした。

抽出された評価項目は、【構造】については、＜高齢がん患者の心身の状態悪化＞、＜治療効果/治療抵抗性＞、＜高齢がん患者の療養環境＞、＜高齢がん患者の家族の負担＞、＜高齢者のがんと看護についての知識・技術の修得状況＞、＜倫理教育の有無＞、＜職種の専門性と多様性＞、＜組織の多職種・チームの活用状況＞、＜地域連携組織の有無＞の 9 項目であった。【過程】については、＜ニーズの探求＞、＜フィジカルアセスメント＞、＜苦痛緩和＞、＜心地良い身体的ケア＞、＜患者の意向とパターンの尊重＞、＜意味ある生活支援＞、＜多職種による介入と評価＞の 7 項目、【アウトカム】については＜患者の望む在り方の実現＞、＜患者の人生・自己・ケアに対する満足＞、＜苦痛や恐怖の表出の有無＞、＜患者の能力や可能性に対する気づき＞の 4 項目が明らかになった。

（3）看護ケアの質評価指標の妥当性

高齢がん患者またはがん患者の統合ケアに関する記載がある国外文献 14 文献、国内文献 10 文献を選定し、高齢がん患者への統合ケアの要素として、＜苦悩への理解＞、＜関係構築に向けた態度の醸成＞、＜意向の断続的な確認＞、＜経験・価値への焦点化＞、＜自らの価値観に気づくための言語化の促進＞、＜現実的な支援の模索＞、＜情報共有＞、＜自律的な意思決定の保障と調整＞、＜達成可能な目標の共有＞が明らかになった。これらをもとに、質評価指標の項目を表 4 の通り修正した。

表 4. 質評価指標の評価項目の修正

構造	過程	アウトカム
・高齢がん患者の心身の状態悪化 ・治療効果/治療抵抗性 ・高齢がん患者の療養環境 ・高齢がん患者の家族の負担 ・高齢者のがんと看護についての知識・技術の修得状況 ・倫理教育の有無 ・職種の専門性と多様性 ・組織の多職種・チームの活用状況 ・地域連携組織の有無 ・関係構築を醸成する組織環境	・ニーズの探求 ・フィジカルアセスメント ・苦痛緩和 ・心地良い身体的ケア ・患者の意向とパターンの尊重 ・意味ある生活支援 ・多職種による介入と評価 ・自律的な意思決定の保障と調整	・患者の望む在り方の実現 ・患者の人生・自己・ケアに対する満足 ・苦痛や恐怖の表出の有無 ・患者の能力や可能性に対する気づき

本研究では、卓越した実践能力をもつ看護師へのインタビューを含む調査から、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアにかかわる 24 項目からなる質評価指標を開発した。がん看護と高齢者看護の双方の領域で重要とされる看護観とケア行動、影響要因に基づき、構造、過程、アウトカムの観点から質評価指標の項目を抽出したことで、質評価指標は、臨床看護師が、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアの内容とアウトカムについて、援助の指針として確認できるツールとなった。

本研究における質評価指標の開発過程で、高齢がん患者への協働介入が、がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護ケアにおける重要なキー概念として評価項目として抽出された。臨床看護師が活用できる質評価指標として実装化するために、高齢がん患者を中心とする協働介入と看護職の役割を明確化し質評価指標に反映させていくことと、妥当性をより高めていくことが今後の課題である。

文献

天野薫（2018）：がん看護と高齢者看護の視点を融合したオンコロジーナースの実践知の抽出，愛知県がん研究振興会助成事業　第 43 回(平成 30 年度)がんその他の悪性新生物研究助成

Donabedian A(1980)：The Definition of Quality and Approaches to its Assessment, Health Administration Press.

厚生労働省：国民医療費の動向．https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/16/index.html，2018 年 10 月 18 日

近藤まゆみ，久保五月（2019）．がんサバイバーシップ　がんとともに生きる人びとへの看護ケア（第 2 版）,東京：医歯薬出版，195-201

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 天野薫	４．巻 13(２)
２．論文標題 高齢がん患者へのオンコロジーナースのケア行動と影響要因	５．発行年 2023年
３．雑誌名 せいれい看護学会誌	６．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Kaoru Amano
２．発表標題 Values and behaviors of oncology nurses integrating cancer nursing and gerontological nursing
３．学会等名 Transcultural Nursing　Society Conference in Japan　2020（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 天野薫
２．発表標題 がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護師の看護観とケア行動
３．学会等名 文化看護学会第12回学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 天野薫
２．発表標題 がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護実践に影響を及ぼす要因
３．学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kaoru Amano, Mariko Tanimoto, Yumi Akuta
２．発表標題 Triggers of the experiences of individuals with chronic illness in end-of-life trajectories: A scoping review
３．学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関